午後1時10分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、12番桑野博明議員の質問を許可します。12番桑野博明議員。

（12番桑野博明君登壇）

○12番（桑野博明君） 皆さん、こんにちは。きょうの午後一番の一般質問を許可をいただきました、12番桑野でございます。よろしく願いいたします。

まず冒頭に、どういったお話をさせていただこうかなというふうに思いましたが、近年の行政がどういうふうに市民の方、それからいろんな地域の方にアピールなりサービスをしてるかということが、大変、今から重要な行政の仕事だろうというふうに思っております。

昭和30年代にスーパーカブ号で大変な売上を上げた本田技研工業が、実は鈴鹿市に工場を実は持ってきました。そのとき工場誘致をどこにしようかといったときに、全国の自治体から立候補が上がったそうであります。それをまず本田宗一郎氏が現場を確認して、どこにしようかということを検討したとき、決め手となった鈴鹿市の要はおもてなしをお話をさせていただいて、今の朝倉市にどうだろうかというのを置き換えていきたいというふうに思っております。

本田宗一郎氏が全国各地を回ったときに、いろんな誘致をするために過剰なサービスをされたそうであります。ぜひ私どもの何とか市に工場を持ってきてくださいというお話をされた、それからいろんな接待をされたそうであります。

実は鈴鹿市では、渋茶を1つ、それから大変暑い夏でしたので、本田氏が汗をかくたびに新しいお絞りを何回でもサービスをされたということでもあります。それから工場誘致予定地に行ったときに、職員の方が炎天下、旗を持って四隅に立って、ここですよ、工場誘致がこういうふうな広さですよとか、ここですよというわかりやすい実はサービスをされたということでもあります。大変、本田宗一郎氏は感激をされたそうであります。

もちろん事前に本田技研工業のほうから質問状があったので、それに対しては懇切丁寧に質問に答えをされたということではありますが、もう1つ、実は当時の市長が、本田宗一郎氏が来られたときに提案をされたことがあります。それはぜひ本田技研工業に鈴鹿に来てくださいと。その折には本田市と名前を変えますというふうに言われたそうです。本田宗一郎氏は、歴史ある市の名前を個人名にすることはいかなものかということで、丁寧にお断りをされたということではありますが、先ほど言いましたように、物とかそんなんじゃないなくて、やっぱり心のこもったおもてなし、誠意が大きかったことだろうと思えますし、市まで変えてもいいというような、要は覚悟がその当時あったんじゃないかというふうに思っております。

大変厳しい財政状況の中ではありますが、そんな心のこもったサービス、それから覚悟のこもった行政運営をしていただくのが、今からの朝倉市がどういうふうに発展するなり、

どういふふうに人口がふえるかということにつながるような気がいたしまして、冒頭にお話をさせていただきました。

あとは質問席にて質問を続行させていただきます。

(12番桑野博明君降壇)

○議長(手嶋源五君) 12番桑野博明議員。

○12番(桑野博明君) では、通告どおり質問をさせていただきます。

まず、先ほど言いましたように住民サービス、それから地方分権になって今までが簡単に言えば自治体の運営をするような朝倉市だったのが、地方分権、それから地方主権といえますか、そういった中でいきますと、自治体経営をいかにしていくかというふうに、今、なっているかというふうに思います。

そういった意味で、市長の施政方針なり、予算の中でよく話が出てまいります、限られた財源の中で施策を実行するためという言葉が出てまいります。それから時代の変化に対応して積極的に改革を推進していくという言葉もよく出てまいります。これは市長が2期目当選されたときの市民の皆さんに約束2014というのを出されております。このことをいかに実行していくかということだろうというふうに思っております。

そういった中で、それを実行やるには、私は要因とするのは、人、職員という考え方、それからそれを成り立っている組織ということが大いに関係することだろうというふうに思っております。地方分権になれば、じゃあ責任はどこにあるのか。以前は国とか県に責任があったことが、より住民に近い立場の地方自治体、市であったり、職員に責任が要は転嫁されてきているというのは実情だろうというふうに思っております。

それから、日本全国の国民のニーズよりも地方分権になりますと身近な住民のニーズが変化したり、それから緊急性があったり、重大性があるというのは、この朝倉市の中でいくと、間近に朝倉市民のニーズが発見できるような気がいたします。

それを踏まえて、限られた財源の中で、また時代の変化に対応しながら、この施策を実行するに当たって、人の問題はちょっときょうは置いときますけれども、組織的に言ったときに、こういった組織を実行するに当たってのこの組織でいいのかどうかというのを、まず副市長、冒頭でお伺いします。

○議長(手嶋源五君) 副市長。

○副市長(片山 潔君) 議員おっしゃいますように、この地方分権が進めば進むほど、私ども自治体にとっては自己責任、自己決定、この範囲がどんどん広がってくる。一方では、対市民の皆様方におかれましては、これだけニーズが多様化、流動化してきております。そういったことから、当然ながらそれに私どもが一番念頭に置くべきことは、これに応え得る施策が提供できる組織体制になっっているかどうかということが一番念頭に置くべきことかというふうに考えております。そして内部的には、そのサービスを提供し得るような簡素で、そして効率的な組織になっっているかということだというふうに考えております。

そのためには、常に私ども市民目線、そしてスピード感、そういったものを持って業務に当たる必要があるというふうに考えております。

当然ながら、そういう先ほど冒頭でおっしゃいましたような市長の施策方針、そして市民のニーズ、そういったのに対しまして、常にアンテナを高く持ちまして、情報収集、そして対応すべき組織、そういったものを常に考えていかなければいけないというふうに考えております。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 言われることはよくわかりました。じゃあ今の朝倉市の組織の中ではいかがでしょう。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 私ども、職員一人一人がやはりそういったニーズに対して十分アンテナを張って、そして情報収集に努めていかなければいけないというふうには考えておりますけども、なかなかその分野によっては、そういった市民のニーズの多様化に対してなかなかついて行っていないというふうな御指摘かというふうに受けとめておりますけども、そこは私ども十分、常にそういったものを心にとめて対応していく必要があるというふうに考えております。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 済みません、ちょっと私の質問の仕方が悪かったですね。いろんな住民ニーズが間近で捉えられるんで、よりわかりやすいし、さっき言いました、より緊急性があったり、重要性というのがもう手にとるようにわかってくるかというふうに思います。

それをじゃあ実行するに当たって、今の行政の縦割りの行政の中では、最初に言いました国の運営という形の中で地方自治体があるのであれば、国が決めたこと、県が決めたことをある部署がそれを実行するという運営の仕方でありました。今回は自分たちがやっぱりニーズを探したり、ニーズを聞き出したり、そういったしながら運営をしていく、実際運営をしていくということになりますと、例えばここ、今、課長来られてる中でいくと、消防防災課だけで、要はそのニーズを解決できないことはあるわけですね。今、消防防災課がやられてる、後で出てくるかもしれませんが、見守りを今、やろうとしている。これは災害に備えて日ごろのことから全部全てそういった状態にしていこうということが今、やられております。これは消防防災課だけじゃなくて、介護サービス課も一緒になってやる、何とかも一緒になっていこうというふうになってきておるのが実情だろうと思います。

そういった意味で、今、1つの施策をやろうとしたときに、1つの課だけでは満足できない、実施できないことがあるということです。人が一生懸命頑張っても、その壁は乗り越えていけない部分があるかと思います。そういった意味で、組織的に言ったときに、それがじゃあどういうふうがいいのかな。現状、朝倉市ではその組織ができてますかという

御質問です、済みません。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 議員御指摘のように、従来ですと、例えば〇〇省の仕事であれば市で言えば何課ですよというふうな縦割りの考え方が従来は浸透しておったかというふうに考えております。私ども、そこは意識的に当然ながら変えていかなければいけないところだというふうに考えております。

一例を申し上げますと、昨年、私どものほうでいろいろ対策を考えました黄金川を守る、環境を保全する対策でございますけども、これにつきましても生物多様性の観点もありましょうし、あるいは河川環境、そういったものを保全していくということ、そしてまたコミュニティの方にもいろいろ御支援、御協力をいただいております。そういった観点から、単に環境課だけではなくて、私どもの中で言えば秘書政策課ですとか、あるいは建設課、それからふるさと課、そういったところも各課各部横断的な対応ということでいろんなアイデアを考えてるところでございます。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） じゃあそれが実際に実行できてるかどうかというところが大変な問題だろうというふうには思いますが、後でまとめてもう1回、質問をいたしますので、ちょっとまず次の段階に行きたいというふうに思います。

定住人口、交流人口を増加するための朝倉の宝を発信、活用するには。

市長もそうですが、いろんな、議場でもそうですが、朝倉市の宝をいかに活用するかという言葉がよく出てまいります。根本的な朝倉市にとって一番の問題といえれば何かというと、私は人口減少問題だろうというふうに思っております。少子化問題だろうというふうに思っております。それをいかに解決していくかということは、やっぱり定住人口、人口の社会増減、いかに例えば出て行く人を少なくして、入ってくる人をいかに多くするかということが朝倉市独自でできるようなことじゃないかな。要は自然増減、例えば出産をいかに多くするかどうかということになると、これは国の問題が大いにかかわってくるのかなというふうに私は感じておるんですが。

そういった中で、各部長さんにまずお伺いをしたいと思いますが、朝倉市の宝はいっぱいあるというふうに思っております。市長が目指されてる親と子と孫が一緒に暮らせる日本一のふるさとづくり、それから災害に強いふるさとづくり、そういった御題目ありますけれども、それをじゃあつなげていくために、朝倉市の宝、私ども、例えば総務部であれば、総務部として朝倉市のこんな宝をこういった施策に活用したいんですよということは、多分、常日ごろ、部長さんは考えてらっしゃることだろうというふうに思っておりますので、まず総務部長からずっと部長、6人の部長に2分程度、答弁をお願いします。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（井上博之君） 総務部も広うございますので、私の宝ということで話したいと思えます。

私は合併する前、私の宝は人だと思えます。合併する前の最初のマスタープランに、私は笑顔と健康ということでマスタープランの表題を考えて出しました。つまりどういふことかといふと、まちづくりを究極的に進める場合、住民の方が自然と笑顔が出る、自然と笑顔があふれる、それが1つの目標であると思えましたので、それと健康づくりをかけて、笑顔と健康というテーマにしました。要は今の住民の方、今現在のたくさん課題ありますけども、結局、行政だけといふのはできません、国でもできません。やっぱり地域の方と一緒にあって課題に取り組みながら、課題の整理やっていますので、私はやっぱりその件でも、今でも人だといふふうに思っています。

○議長（手嶋源五君） 市民環境部長。

○市民環境部長（江藤敦生君） 私は豊かな自然だと感じております。業務の仕事、話をして何ですが、新たにつくり直しました環境基本計画、この中に“思いっきり しん呼吸”という副題を捉えました。人と自然が響き合う町といふことで、大いにこの豊かな自然環境を活用しながら、今、議員御指摘の定住人口なり、交流人口増加の一策となればといふことで、基本的な部分を盛り込んでおりますけども、まだまだ未活用な部分も多うございます。今後、職員一枚岩となりまして、この計画に基づく豊かな自然、これを市内外にさらにアピールしてまいりたいといふふうに思っております。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（江藤剛一君） 保健福祉部の考えでもお話しさせていただきます。保健福祉部といたしましては、ことし8月から中学生まで医療費一部助成しておりますが、こういった公費の充実、それから学童保育所、それから保育所、待機児童がないといふことも1つのアピールポイントだと思っています。あと子育てに関しましてはいろんなニーズがございます、細かいごく少数のニーズもございます。そういったいろんなメニューを数多く国の事業を取り入れながら子育て支援に対する事業を行っている、そういったところを着実にやっていくことかなといふふうには考えてます。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 農林商工部長。

○農林商工部長（熊谷鉄夫君） 農林商工部といたしましては、先ほど市民環境部長が申し上げましたけれども、豊かな自然といふのが本来はあれなんですけれども、その中でも多種で豊富な農産物、あるいは森林、緑、または午前中にも質問ございましたけれども、三連水車など農業施設や歴史的な伝統建造物、こういうものを主体に宝といふふうな形で進めさせてもらっております。

残念ながら現在模索を繰り返してはのたうち回っておりますけれども、長期的展望でし

なくてはならないものと、短期的に措置をしなければならないものと二通り我が部ではあるというふうに思っております。できるだけそういう形になりたいと思いますが、ちなみに私が好きなのは、高いところから筑後川、稲穂の光る、そして緑がせせり出す、こういう風景が大好きです。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 都市建設部長。

○都市建設部長（熊本正博君） 都市建設部に私、おりますが、私が宝とするものは何かなど考えましたら、やはり水です、水が朝倉市の宝であり、私の宝でもあります。何でかという、きょう議会中でもいろいろ出ておりますがスイゼンジノリ、それから三連水車、きょう出ましたが、それから山田堰とかキリンビール、みんなこれは水が絡むものでございます。そういうことから水は丸い器に入れたら丸くなるし、四角の器に入れたら四角になります。

それで朝倉市では水が道路をつくったり、橋梁をつくったりしております。これはダムの建設の関係だと思えます。水でいろいろな道路ができたりとか、今、言う橋梁ができたりとか、そういうことができっております。水が人を呼んで、人口問題で減とか、いろいろと出ておりますが、朝倉市でこの水を中心に考えていったら、人口増もおかしくないことではないかと思っております。

それから、水がさっき桑野議員も申されましたが企業を呼ぶ、水が企業を呼ぶというようなことも考えられますし、水が金を呼ぶということが一番だと思っております。

それで、水をどのように光らせたらいいか、その施策が朝倉市の大事な1つではないかと考えております。水光る朝倉市をつくるために、はい、時間が長くなりましたのでこれで終わります。まだいっぱい語りたいたんですが、水でおもてなしということで終わらせていただきます。

○議長（手嶋源五君） 教育部長。

○教育部長（前田祐二君） 教育部、教育委員会として唯一、宝物を上げるとしたならば、小学校、中学校のみならず、子供たちが宝だというふうに考えております。

議員おっしゃいましたように、どのように活用するかということではなくて、子供たちにいかに充実した教育をこちらのほうから教育課程を提供して、どういった人材に育てるかによって、朝倉市のみならず、全国に優秀な人材を輩出していけるものというふうに考えております。ひいては将来的に市長が提言申し上げております、親、子、孫、この3世代が同時に生活できるというふうな、そういった人材を育てていくのが教育委員会としての使命だというふうに考えております。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） ありがとうございます。多分、急な通告だったんで、考えられ

るのが一生懸命だったのかなというふうに思いますが。

まず、ではちょっと副市長にお伺いします。今、担当部長が朝倉市の宝を言われました。私もそれが宝だろうというふうに思っておりますし、この宝をいかに人口減少、それから災害に強いとか、住んでよかったというようなまちづくり、朝倉市にしたいというふうに思ってるんですが、今の状況の中で、今、部長さんたちが言われた宝をいかに活用してやってくるかということはあるのでしょうか。人口対策にしてもそうですが、そういったことに大きな課題としてなってる分に関して、どういうふうに活用されて、結果的にこういうふうになってますよということがありますか。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 結果的にということで御指摘でございますけども、結論から言いますと、まだまだ途上の分野も多いかと思えます。各部長から申しあげましたように、私どもさまざまな地域資源、恵まれてると思えます。当然ながら、それをやはり私どもの朝倉市の長所だというふうに十分認識をして、それをやはり内外に発信していくということがまずは第一ではないかなというふうに考えております。

そういう意味で、もちろん私ども市の中には、広報担当課もございますけども、やはり職員一人一人がいわゆる営業マンという形で情報発信、そして自分が担当してる分野、あるいは自分が宝だと思う分野、そういったものについて積極的に発信をしていくということが必要ではないかというふうに考えております。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 私もそういうふうに思っております。冒頭で言いましたけれども、施策を実施していくためには人の問題と組織の問題が私は大いに関係することだろうと思えます。職員が一生懸命、頑張ってもらわないかんといいところもありますし、市民がそれに応援するというところもあるかというふうに思えます。でも、それを阻害してる分はどこかという、私は組織に大いに関係するようなことがあるような気がいたします。

実は国でも、あの国でもですよ、省庁の要は縦割り行政は、もう今からは日本を束ねるためにはもうだめですねと、要はいろんな省庁が集まったところでプロジェクト化をしていかないと、国の大きな問題も解決できませんよというふうに今、言われております。住民に近いところの朝倉市は、もっとそれが敏感に感じなくちゃいけないことだろうというふうに思っております。

よくプロジェクトでやりますという話、要は縦割りの行政を解決するためには、プロジェクト、何課何課が一緒になってやっていこうということがあるんですが、今回の一般質問とか、今までの見ると、こういったことも要はプロジェクトをやらなくちゃいけないんですねというのがありますし、今、実際にやられてる分もあるかというふうに思えます。

私が一番、朝倉市の中でプロジェクトが成功してるな、進んでるなという事業は、国民健康保険の健全化、これは絶対、プロジェクトが進んでるなというふうに思えます。健康

課、それから介護サービス課、もろもろいっぱい入った部署で、実は健康づくりをやって、健康寿命をしていこうと、国保が赤字なんで、どうか解決していこうというふうに、このプロジェクトは私はどこにでも出していいようなプロジェクトだろうというふうに思っております。

ところが人口問題にしても、見守り支援にしても、朝農跡地にしても、農産物のブランド、それから一般質問がありましたふるさと納税のことにしても、それから黄金川、それから三連水車をいかに守っていくか、それから支所の窓口業務がどうこうってありましたけど、ワンストップサービスのことにしてもそうだろうというふうに思います。いろんな縦割り行政ではできない、要はプロジェクトとしてやらない事業は今後いっぱい山積してるかというふうに思います。これを実際にやるためには、おのおのプロジェクトを立てること、つくり上げることも大切かと思いますが、この縦割り行政に統括的に命令形が出せるような組織をすることが、私は一番だろうと思っております。

総務部の中で鶴田課長のとこですね、がいかに旗を上げたとしても、極端な言葉言いますと、建設が悪いというわけじゃないんですよ、いや、建設課にしては、それは俺たちは俺たちで一生懸命やりよるけと言われれば、総務部の一職員が建設課の財布をさわることはできないという組織に実はなってると思うんです。いろんなニーズが多様化してる中、それからニーズが緊急性をやった中では、私はそれに対応する組織をつくるのが先決だろうというふうに思っております。例えば市長室をつくるとか、副市長室をつくるとか、プロジェクトの項目は全部そこで最初は取り上げますよと、軌道に乗ったら各課にしましよというふうな立ち上げをやっていかないと、このニーズが多様化してる、緊急性がある中で、じゃあ頑張ります、頑張ってますで済む問題じゃないというふうに私は危機感があるというふうに思ってるんですが、副市長、いかがでしょう。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） おっしゃいますように、やはりこれだけ市民のニーズが多様化し、またそのスピードの変化も早うございます。そういったものに臨機応変に対応していくためには、そういったプロジェクトチームといいましようか、プロジェクト化、こういったものが有効ではないかなという部分も確かにございます。

そういう名前ではございませんけども、現在、私ども市役所の中には、先ほど御指摘ありました秘書政策課ございます。特に重点施策に関しましては秘書政策課はもちろんですけども、企画を担当する部署、あるいは予算を担当する部署、そういったところが合同で重点施策の企画、そして執行については取り組んでるところでございます。

現時点ではそういった組織対応の中で動いてるところでございますけども、特に御指摘ありました人口増加、定住人口の増加に関しましては、先ほど各部長のほうからもありましたけども、子育て支援とか、あるいは雇用、そういったものでそれぞれの分野では十分取り組んでいるというふうに認識をしております。ただ、それがなかなか私ども見せ方が

十分ではないのかもしれませんが、それが外から見た場合に、なかなか定住促進策として見られにくいというところがひょっとしたらあるのかもしれませんが。そういったことにつきましては、現在、私どものほうで今、考えておりますが、市のホームページの中に定住促進コーナーといったものを、特設コーナーを設けるということで現在考えておまして、それによって内外に朝倉市の魅力を発信していこうというふうに考えてるところでございます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 早急性がありますよということがまず1つだろうと思います。今、人口減少が起きたわけじゃないんですが、今からずっと、今まで起きた中で、今度は加速していくような人口減少になっていく中でいくと、朝倉市が本当に成り立つのかなというぐらいの、要は今の職員さん、今の部長さんたちは危機感を持つとかないかんですね。この対策は、多分、今の部長さんたちが退職された3年後、4年後、5年後ぐらいに初めて成果が出てくることだろうというふうには思いますけれども、やっぱり朝倉市がどうなるかということは、今の部長さんたちが頑張るとかんと僕はいけないことだろうというふうに思っております。

コミュニティの立ち上げもそうでした。当時のコミュニティの担当の方が、24時間、コミュニティを考えて、朝倉市にコミュニティをつくったのは俺たちよ、俺たちがこれやったから、朝倉市はこういうふうになったということは自信持って言えるぐらいの立ち上げをしてくださいというお話をしたことがあります。今の部長さんたちは責任を持って、5年後、10年後の朝倉市をどうかということはやっとかないかんというふうに思っております。

そういった意味では、やっぱりどうしても僕はネックになってるのは、僕は縦割りだろうと思うんです。幾ら秘書政策課が頑張ったときにも、多分、僕は、ここにはいらっしやらないと思うんですが、うちの課に何を言いよるかという僕は課長はいると察します。ただ、どうしてもできないことはあるかというふうに思いますので、私は人が一生懸命頑張ってることはよく認めてます。職員が頑張ってること認めてるんで、その職員たちが働きやすいような組織ということは、やっぱり副市長は考えるべきだろうというふうに思っております。最終的な判断は市長かもしれませんが、やっぱり市長に提言するというのは、僕は副市長のことだろうというふうに思っております。

そういったことで、もう1つは、いろんな宝物がありますけれども、誰も言わなかったんですが、朝倉はこんな祭りがあるんですよとか、こんな行事があるんですよとかいうところも宝だろうと思ってるんですが、例えば秋月も宝でしょうし、原鶴温泉も宝だろうと思うんですが、先ほど副市長がちらっと言われましたけれども、営業するということは多分、私はおのおのが営業してるかもしれませんが、それが連携した観光行政になってないとか、連携したことになってないことは大いにあって、僕は本当の営業ができてないよう

な気がいたします。ですから、私が提言とするならば、縦割りの行政を削減するとか、壁を超えてでもできるような組織づくり、プロジェクトAじゃないんですが、そういったのをもうさきに組織の中に入れとく、つくるというやり方。

それから、いろんな宝物を売る人がおのおので売ってるんですね。朝倉市にはこんないものがありますよということはあってるんですが、私は行政が株式会社になってもいいというふうに思ってるんで、私はどこかに営業部をつくったらどうかと、朝倉市の宝は私が売りに行きますよ、農産物は私が売りに行きますよというような営業部をつくって朝倉市をPRする、それが交流人口になったり、定住人口になるような形の私は売り込み役、営業部が必要な気がいたします。いかがでしょう。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 全国的に見ますと、確かにそういったトップセールス課といいましょうか、シティーセールス課とか、あるいは営業課というところもあるようでございます。私ども朝倉市としましては、先ほど来、申し上げてますように、要するに広報部門もございまして、またこれは私の考えですけれども、一人一人がやはりその分野の施策担当者であると同時に営業マンであるべきだというふうに考えております。

一例を申し上げますと、これは現在、今、準備中でございますけれども、前に朝倉の宝フォトコンテストというものを実施しました。これでさまざまな地域資源、そういったものを市民の皆さんからいただいております。それを今回、名刺の台紙にしまして、それを市民の皆さん、そして私ども職員が積極的にPRしていくという準備を今、進めてるところでございます。そういったものをツールを有効に利用して、一人一人が宣伝マン、営業マンになっていくということで現在は取り組みを進めていきたいというふうに考えてるところでございます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 絶対、思っておかなくちゃいけないことは、今までのやり方ではだめだということが、要はもうそこまで来てるんですよということをまず感じてほしいなと思っております。通常のやり方では、多分、この人口減少は歯どめはきかないと思います、社会増減は歯どめきかないというふうに思っています。そういう状況だろうというふうに思ってるんで、その辺は今までのやり方を打破することをまず考えていかないと、多分、僕は解決なり、改善というのはできないような気がいたします。

極端なことを言いますと、今から朝倉市は今までの人口減少問題はさておきながらも、例えば大きな問題でいきますと新庁舎建設という大きな問題がございます。それから朝農を活用して、いかに今度は交流人口をふやしていくか、建物を建ててどうしていくかということが多分、大きな課題になってくるかというふうに思います。

そういった中で、これは仮の話ですが、たとえばルーチンって、今までやってることの部門と、新たに今から、例えば人口問題を解決していこうという部門も切り分けるような

形、おのおのが頑張るでは、多分、誰も感じてないし、誰も見てないと一緒だろうと思います。何か知らんけど、朝倉はがんとかくるねというところがないとインパクトはないというふうに思っております。それはやっぱりそういった組織をつくることは私は大きな住民なりだろうというふうに思っております。

この朝倉市の中に定年退職された日本のトップセールスとか、例えば農産物を売るには俺がぴったりだという例えば農協出身の方、それから市場出身の方が私はいるような気がします。それから旅行関係に、私はこういった旅行会社に顔がききますよという方もいらっしゃると思います。こういった企業には、私はこういったノウハウがありますよという方、この朝倉市民の中には大勢いらっしゃるような気がいたします。その方たちに手伝っていただきながら、営業部をつくったらどうだろうかということが私の案であります。

ぜひ市民祭りも一生懸命やって、市民が憩いの場、それから、この市民祭りを地域の方に、それから福岡県内、それから福岡県外にも売り込みをして、当日にはいっぱい来ていただくというような交流人口をふやそうというようなこともありますが、その祭りを売りに行ってる人は誰もいないんですね、こんなすばらしい祭りがどうだろうか、誰もいない。今、ラジオに出たりとか、いろんなことでPRはしてるみたいですが、そういったことが、私はやっぱり専門的な部門がいたら、どれだけこの朝倉市が有名になるだろうか、もっと朝倉市に興味を持ってもらうだろうかというのを常々思っております。

今の仕事と新しい仕事というのを切り分けながらやっていくことは大切なことだろうと思います。極端なことを言いますと、例えば副市長を2人置いて、今までやってる問題は今までやって、新しい問題に関しては新しい短期間であるけれども副市長を2人整理して、そこはそこで充実してやっていただくというような考え方も私は1つあるような気がいたします。

今の今までの中でいろいろ副市長に質問いたしましたが、市長、今までの質問の中で感じられたこととか、そういうのがありましたらお願いいたします。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） いろいろと桑野議員の考え方の中で、市政の、市のいわゆる組織のあり方、職員のあり方等について提言を含めた御質問いただいたわけであります。

その中で、例えば行政縦割りという話が出てまいりました。縦割りという話はもう随分昔から言われてます。その縦割りというのが、いわゆる組織の形としての縦割りなのか、中身の仕事が縦割りなのか、そこによって随分捉え方が違うと思うんです。

確かに行政で私も朝倉市もそうですけれども、やはり上級の役所の流れの中での組織が分かれています。それがそのままですと、言われるような縦割りになるんでしょうけれども、現実問題として、副市長も答弁しましたように、その中でいわゆる朝倉市が各部各課横断的に対処しなけりゃならない問題については、やっぱりきちっとそういう形で対処していくということ。これは形は縦割りであっても、仕事の内容としては、それが必ずしも縦割

りと言えるのかということが言えるんじゃないかなかなと。

少なくとも現在においては、秘書政策課をつくったのも1つはそういう意味合いがあったんですけども、従来、やはり市長部局の中で、市長部局の中って要するに秘書政策課の中で担当者が各部の担当して、その各部の人たちと重点施策を話し合っ、これからの施策を考えていくという意味合いで秘書政策課という部署をつくったわけです。そういったことも含めて、営業課については、1つの御意見としてお伺いをさせていただいております。

ただ、御理解いただきたいのは、一方では市民のニーズが非常に多様化しておる。そういった中で、一つ一つそれに市の職員は対処をしていかなきゃならん。一方では、今、言われましたように、市民じゃなくて、要するに将来的にやっておかなきゃならんものもたくさんある。それも対処していかなきゃならんということでもありますから、職員はよく頑張ってもらっていただいておりますけども、そこらあたりでまだまだ、組織の問題にしてもまだまだそのときそのときの政策課題を含めて考えた中で、時代も考えた中で組織を変えていくということは当然のことですし、それは常に心がけておかなきゃならんことですが、いろいろと御提言いただいたことについては、私どもとしても真摯に受けとめまして、内部でいろんな検討をさせていただきたいなというふうに思っています。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） ぜひ、私は1人の議員としての提言でありますので、これはどうこうってないと思いますけれども、ぜひ物事をやるに当たっては、やっぱりそれなりの形から入るということも私は大切だろうと思いますし、朝倉市役所が変わったよというのは、私は形からだろうというふうに思いますし、それがひいては市民の行政サービスが向上するであるとか、今までやってることがスムーズにいくとか、そういったことに私はつながるような気がいたします。

時間がないんでと思ってたんですが、先ほど副市長の中からホームページの話が出てまいりましたけれども、実はホームページが、朝倉市のホームページはなかなか、私、個人的な意見でいきますと余りいいホームページになってないなというふうに思っています。再度見ようというホームページにはなってないということです。ぜひその辺は改良していただきたいと思います。

よく質問で、ブログとかツイッターとか、よく聞きますよね。実はある市町村に言わせると、ブログとかツイッターをやっているのは、そこから実はホームページに誘導するようなやり方をしているんですね。だからブログとかツイッターだけで考えてないですね。ホームページに誘導するツールとしてブログ、ツイッターをやってらっしゃるんです。だからホームページがどんどんアクセス数がふえていくというところはある。見たときに、朝倉市は、ちょっと行ってみたいとか、住んでみたいというホームページになっとけば、より効果が出てくるかと思うんですが、よく、いや、ツイッターとかブログはですね、今、

そのもの自体がどうこうというよく話を聞くんですが、実はそういうふうな狙いでやってらっしゃるというのがありますので、それもちよっとつけ加えておきたいというふうに思います。

では、次の質問に参ります。行政責任についてであります。

私は行政責任とはこういうふうに思ってますよということをさきに言いまして、おのこの入っていきたいというふうに思います。今、公助とか、共助、自助というのが盛んに言われるようになりました。先ほど言いましたように、国がどうこうじゃなくて、今度は地方分権の中で、国に責任があったものが、要は市になったり、職員になったりというのが責任が変わってきつつあるかというふうに思います。

行政の対応性とか、要は不法性とか、不適切な行政行為によって要は災害、障害を受けたら補償するというのが行政責任であるかと思えますし、これは行政の守備範囲内ですよというところがあります。それから、今、よく公務員の何とかってありますけれども、そういった倫理の問題を意味する多義的な概要というのが今まで行政責任と言われたことであります。行政がやったことに関して、何か起きたときには行政責任ですよというのが今までの行政責任の大方の考え方だったと思えますけれども、今、薬害訴訟ありました、御存じだと思いますけど、エイズの問題に関しては国に責任があるというふうに裁判になりましたけど、あれは監督不行き届き、それからやらないことに関して責任がある、それから危険を放置しているということに関して、今、行政責任、今まではやったことに関して行政責任がありましたけど、今、やらないことも行政責任ですよというふうに実は行政責任の幅が広がってきております。まずそれを話をして、お伺いをしたいと思います。

広島の大変な災害に関して、本当に多くの方の命が奪われたというのは、大変悲しいことだろうと思えますけれども、朝倉市における、防災対策における行政責任、要は行政としてはここまでが行政責任だろう、あとは共助、自助でお願いしますよということが私はあるかと思えますが、まずどういうふうに考えてらっしゃるでしょうか、行政責任を。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（井上博之君） 確かに行政責任の考え方も、時代の流れ、あるいは法整備、それから裁判等の事例によって変わってきます。わかりやすく、もう少し1つの例をとってみますと、私たちが考える行政責任の1つとして、今、例を挙げていただきましたけれども、例えば、ちょっと私の部署にありますけど、税の賦課をして、賦課するだけで、後、滞納整理してない、それはもう行政責任の範疇でしょうということで滞納整理までしなさい、きちんと取れるものは取りなさいというのも1つの行政責任、それ、わかりやすい例だと思います。

災害の場合が、随分最近、法整備とか変わってきまして、少しどこまでが行政責任で、どれが違うというのはなかなか、ここからここまでというのが少しまた変わってきてるように思います。

1つ、私たちが行政責任と今、捉えてるのは、災害の、これも災害の発生前と、災害時、災害対策とはまた少し違うと思います。1つの例として、例えば災害対策基本法というのがございます。この法に基づいて目的が市町村の責務というのがありますので、災害に関しては、これが大もとになっているいろんな法律がありますから、これに取り組んでいくこと、これも1つの行政責任ではないかなという、災害に関してはそう思ってます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） では、次、甘木の地区の中心市街地整備事業を今、行っておりますけれども、これは旧区画整理の枠組みの中で、いろいろ行政が縛ってきた部分があるので、その代がえとして、今、プラン21というのをやっていますよと。この質問をしたときによく言われるのが、要は行政責任のもとにやっていますよということがよく言われています。じゃあこのプラン21に関しての行政責任は、どこまでが行政責任というふうに考えていらっしゃるのか、簡潔にお願いします。

○議長（手嶋源五君） 市街地活性化推進室長。

○市街地活性化推進室長（井上 浩君） 区画整理にかわるまちづくり事業といたしまして、プラン21計画を地元の住民の皆様と区画整理にかわる、早期に財政負担のないように、かつ民間投資を誘導できるような事業ということで、現在、新プラン21計画という市民の提案に基づいて、行政の決定した計画を進めておりますが、今、朝倉市としましては、この新プラン21の実現が行政責任として計画されたものの、実現が責任としてあると考えております。

以上です。

（「どこまでが」と呼ぶ者あり）

この新プラン21計画の実現が行政責任という意味で、この計画に上がってる事業を実施することと考えております。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 今の答弁でいくと、1期、2期、3期に分かれていますけど、3期までやるのが行政責任ですよということとっていいですか。

先ほど防災対策に関してもそうだったと思うんですが、実は冒頭で言いました、公助、共助、自助というのがありますよ。今、マスコミ等で、よく災害であったときによく言われるのは、要は公助のことをよく言われてるんですね、行政責任において何とかというところがよく言われるんですが、そこだけじゃないと思うんです。要は自己責任、自助の問題もあるし、共助の問題もあると思うんですが、だからそこに余り私はかたまりすぎてるような感じがいたします。

最初にありましたように、限られた財源の中で、要は朝倉市を住みよいまちづくりとか、どうこうするために一生懸命やってるわけです。公助を持ってやってるんですが、その中

には共助があって自助があるはずだろうと思うんですが、公助ばかりで共助、自助がいつの間にかどっか飛んでいくような、防災でもそうですが、何か、いやいや、本当は自分は自分の命を守るのは自分でしようというところから僕はスタートすることだろう。この分に関しては公助でやりましょうというのが話があるんですが、今、上から来るんですね、公助がこうだという話があるんで、ぜひ僕はいろんな住民サービスとか、住民説明会に行かれると思いますけれども、例えば役所としては、市役所としては、行政としては、今までここしかできません。例えば危険地域はここに関してはこれだけに、いつまでに回避しますとか、こういう工事をやりますということはありますけれども、それ以降に関しては、例えばコミュニティでやってください、これは自分でやってくださいということはあるかと思います。

そういった要は全てが公助、公助と言ってたら、先ほど限られた財源ということでは、僕はできないと思うんですね。ですから、そういった新プラン21でいきますと、例えば今まで甘木市のときに発展をされた甘木町の中で、多額の多分、固定資産税を払っていた経緯は僕はあるかというふうに思いますし、それだけの今までのにぎわいは、やっぱり甘木の町の方にお世話になったというところは大きいあるかというふうに思いますが、でも、実際にじゃあどうなったかといったときには、要は地方の、例えば甘木町以外のところでは、おのおのがやっぱり一生懸命、頑張ろうとしてるわけですね。だからそこが、そういった敬意は表しなくちゃいけないんですが、じゃあ公助でしてくださいという話は、またおかしな話だろうというふうに思ってるんで、ぜひ僕は、その辺は区切りなり、説明は住民説明会の中でお話をしながらやってあげたいんですよ、やりたいんですよ。でも、財源がこうやからということは、やっぱりちゃんとした説明をすることが私は行政責任の分に入ってくるかと思います。ぜひその辺は、先ほど言いました行政責任の中に、詳しくわかりやすい住民説明というのを私はこの行政責任の中に入れてほしいなというふうに思っております。

ちょっと時間がなくなっただけで、余りこの行政責任に関しては詳しく質問ができませんでしたが、冒頭で言いましたように、大変今、厳しい行財政改革、それから行政の中で人口問題とかいうふうにやってるんですが、旧甘木でいきますと、大企業でありますブリヂストンとか、それからキリンビール工場を誘致した実はいい模範があるかというふうに思います。先ほど本田宗一郎氏が鈴鹿に決めたときのお話をさせていただきましたけれども、やっぱり心のこもったおもてなし、誠意のあるおもてなしというところは、私は今後、いろんな意味であるかというふうに思いますし、もう1つありました覚悟、朝倉市の覚悟は何やるかといったときに、やっぱり朝倉市はこれぐらいの覚悟でやりますよと、名前を変えるだけが覚悟じゃないというふうに思ってますけれども、それぐらいの覚悟があるというふうに朝倉市全体が見られるということは、私は市民にとって、それから住んでみたいと思う分に関しては大いに関係があるかというふうに思います。

ぜひ朝倉市役所に入ったら、職員の方がいらっしゃいませと言われるような、何か知らんけど変わったねというふうな朝倉市に、庁舎になればというふうに思ってますし、限られた財源の中で住民サービスが向上できることは、その辺からあるのかなというふうに思っておりますので、ぜひ人だけじゃなくて、組織が大いに関係あるんですよということを常日ごろから意識していただきながら、住民サービスの向上に励んでいただければというふうに思っております。

これで私の一般質問を終わります。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後2時8分休憩